

原研一期生同期会開催

― 四月八日入所五十周年記念日に日本青年館で ―

さる四月八日(日)原研一期生の同期会が日本青年館ホテルで開かれた。生存同期生四十七名中二十六名が出席という盛会であった。

一九五七年四月八日原研公募新卒一期生五十七名が入所、神宮外苑の日本青年館で配属先を知らされないまま合宿研修を受けた。今回はその満五十周年記念日に場所も同じ日本青年館で同期会を開くことにしたものである。一期生は個性の強い人が多くベクトルが揃わず過去五十年間で一回(一九七六年)集まったきりである。ちなみに聞くところによると一九五八年入所の二期生は数年一度同期会を開いているとのことである。

いずれも昔懐かしい顔ぶれで約二時間、時の経つのも忘れて歓談が続いた。一期生は全員七十二歳以上であるが、日本の原子力の第一線で活躍した人も多く、それに今なお常勤で要職にある人も何人もいて、原子力草創期を再現するような会場の雰囲気であった。皆かつての面影やしぐさを残しており、人間というのは五十年経っても変わらない

いものだとつくづく感じた次第である。

なお後日、今後の同期会の持ち方等についてアンケートをとったところ、今後も毎年または隔年に集まりたいという希望が多く、また賛成多数で「原研一期生五十周年記念文集」を作ることがきまった。今回は同期生名簿の作成に苦労したが、おかげで次回からは容易に開催することが可能となった。「文集」については各人五十年の経歴等に重きを置いたものを残そうというもので、日本の原子力開発の歴史の一面を示すものとして後世に残る貴重な記録となるものと思われる。

(飯島 記)

